

理事長ごあいさつ

学校法人上智学院理事長 アガスティン サリ

平素より上智大学の教育・研究そして社会への貢献活動にご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。地域懇談会では、ご父母・保証人の皆様と直接お目にかかり、教育方針をお話しさせていただくとともに、学業・就職等の状況についてご説明しております。

1967年度に九州地区と山口県のご家族を対象に「父兄懇談会」として始めました上智大学の保証人とのコミュニケーションの場は現在「地域懇談会」の形となり、全国約 10 箇所を会場として続けてまいりました。その目的はステークホルダーとのコミュニケーションを図るとともに、ご父母・保証人の皆様からのご意見を直接伺って、将来に資することです。

グローバル化の話題は既に当然のこととなり、今はChatGPTやAI機能のメリットとデメリットを考えるような時代です。一方で、日本の少子化のスピードは一段と加速しています。いずれも日本の教育現場においてチャレンジングな課題であり、学生のレポートがChatGPTによって書かれたら、どのように教育研究を指導していけるかなど悩みは尽きません。日本の近年の急速な少子化への課題などに対応することも大事ではありますが、今私たちが育てている子供たちを優れた人間として、より良い世界を創ることに貢献できる人として、特に他者への貢献ができる人として育てることは、教育研究に携わっている教育関係者とご父母・保証人が一緒に協力する必要があると思います。

地域懇談会はその意味で情報交換の場のみではなく、ご父母・保証人の皆様におかれましては、大学の現状と動きに関心を持っていただき、ご質問やご意見をいただいて、ご子女の皆様の成長につながる助言と上智大学の向上のためご協力を賜りますよう切望しております。

学長ごあいさつ

上智大学長 曄道 佳明

日頃より、本学の教育、研究、社会貢献の諸活動に、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

ようやくキャンパスは以前の活気を取り戻しつつあります。コロナ渦が終焉を告げたわけではなく、依然としてその動向に引き続きの注視が必要であることに変わりはありませんが、学生たちの日々のはつらつとしたキャンパスライフの様子は、私たちの大きな励みとなっております。

社会の変化は、急激に進行するばかりでなく、非連続的な一面をも有しており、視界不良の中で次代の社会を展望している状況にあります。このような時代であるからこそ、社会が真と善を見つめ直し、弱者が取り残されることのないよう配慮がなされることが強く要請されています。そのような社会の牽引者こそが、上智大学の教育精神「For Others, with Others」に裏打ちされた真のソフィアンであろうかと思えます。主体的に学びをデザインし、学び続ける力を備えることの重要性を、本学が展開する「基盤教育」の下で学生に伝え、同時に「他者に寄り添うリーダー」の意味を、様々な機会を通じて感じ取ってもらえる修学環境を整えるべく、邁進してまいります。皆様におかれましては、学生のチャレンジを後押ししていただき、学生時代ならではの体験、経験、実践を積ませさせていただきますよう、ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、皆様のますますのご健勝を祈念申し上げ、2023年度地域懇談会でのご挨拶とさせていただきます。